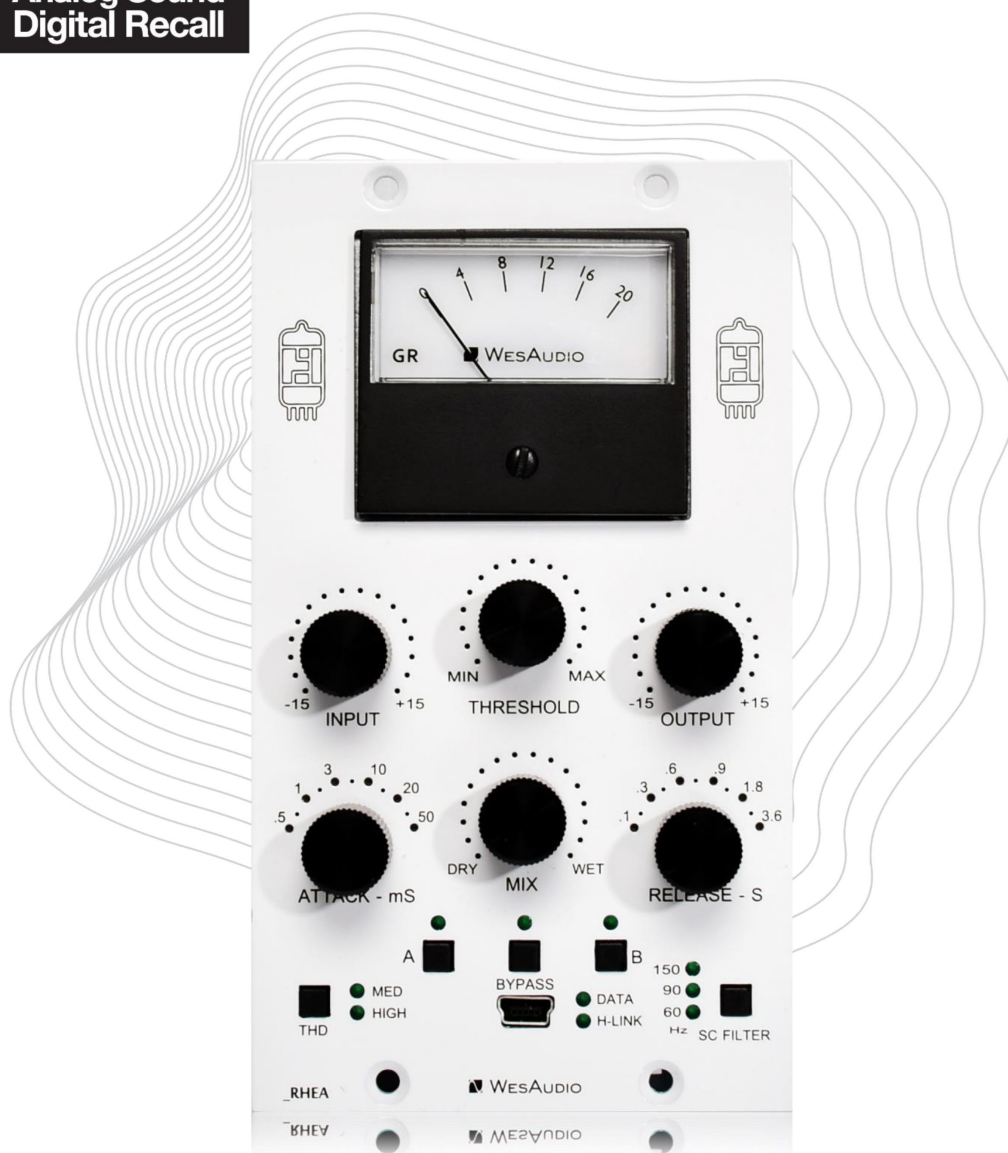


Analog Sound
Digital Recall



 WESAUDIO

_RHEA

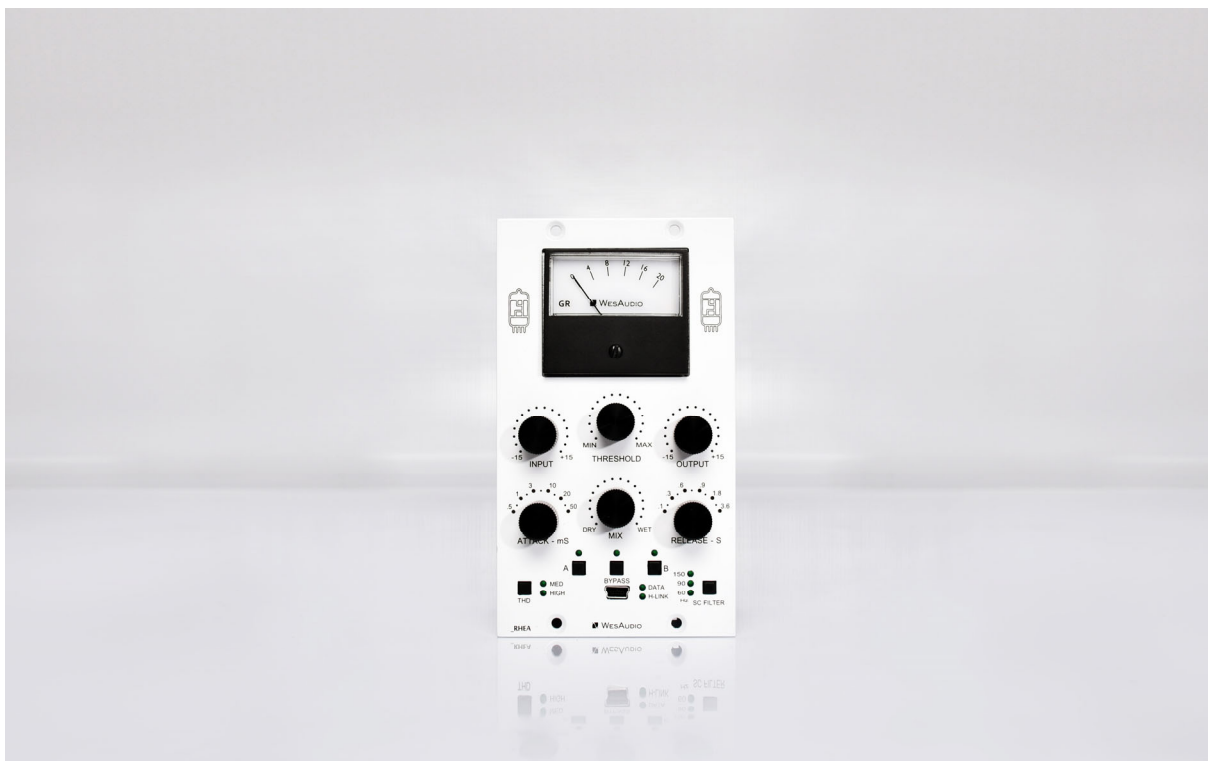
取り扱い説明書
(株)アンブレラカンパニー

www.umbrella-company.jp

WesAudio _RHEA

WesAudio _RHEAは、ng500シリーズラインの製品です。
デジタルフットプリントが現代の一部になるにつれて、アナログフレイバーがこれまで以上に求められています。vari-muデザインは最も音楽的で、豊かなサウンドのコンプレッションを提供します。たいへん高いレベルでモダンとヴィンテージを融合しています。

_RHEAは、デジタルリコールを備えた完全アナログ回路の、ステレオのバリミュー・チューブ・コンプレッサーです。



モジュールの設置について

WesAudioの_RheaはAPI500シリーズ(APIアライアンス)用のモジュールです。単体では使用できませんので、必ずAPI500シリーズ互換の電源ラックにマウントしてご使用ください。WesAudioの専用電源ラックも発売されています。

WesAudio _RHEAコンプレッサーモジュールは、API™500シリーズ互換ラックまたはng500ラック(例:_TITAN)にインストールするように設計されており、スタンドアロンで機能することはできず、ラックシステムから電源を供給する必要があります。

注意:ユニットは、消費電力と真空管のためにより多くの熱を生成します。適切な空気循環を可能にするために、シャーシの上下に空きスペースを残すことを強くお勧めします。理想的には、上に 1U スペース、下に 1U スペースです。

*本機の消費電流はメーカー公表値で 190mA/rail つまり _RHEA 1 ユニット当たり 380mA となります。安定動作のためには本機に 500mA を安定供給できる電源環境でご使用ください。システム構築の際は電源フレームの電流容量をお確かめください。

また、電源投入時の突入電流(rush current)は条件によっては定格より大きく流れる場合もございます。万が一正常に起動しない場合には再度電源を入れなおしていただく事でほとんどの場合は解決できます。



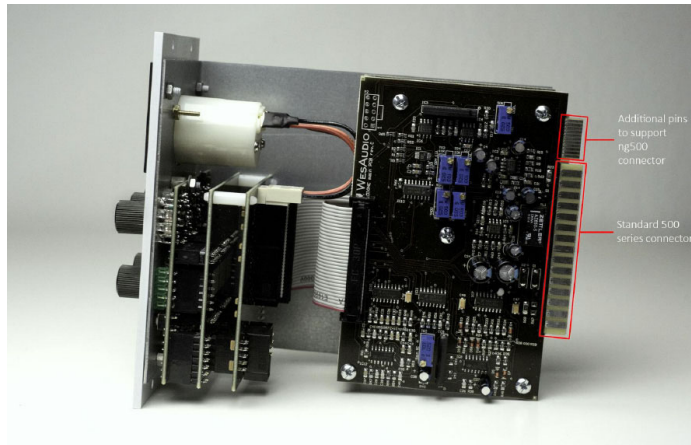
重要な注意(必ずお読みください)

ラックに_Rheaをセットアップする場合は、**「完全に電源を抜いた状態」**で行ってください。

!!!ユニットは高電圧で動作しています!!!

!!電源がオンのときには、絶対にモジュール内のコンポーネントに触れないでください!!
感電の恐れがあります!!

モジュールの設置について



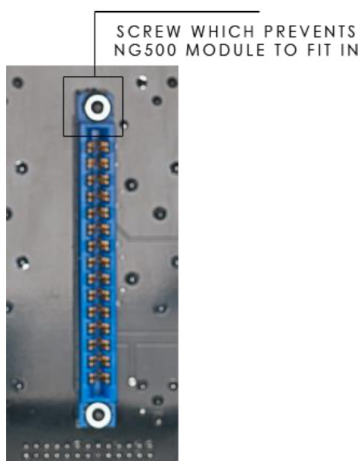
ng500(Next Generation 500)では、標準のAPIモジュール共通のコネクターの上に専用のng500コネクターが装備されています。ng500対応の電源ラックである_TITANなどを利用すると、このコネクターによりGConプロトコルを通信できるようになり、設定のリコールなどの情報をやりとりできます。

以下の API500 互換ラックでご使用になりたい場合には、必ず事前にご相談ください（そのままでは挿すことができません）。

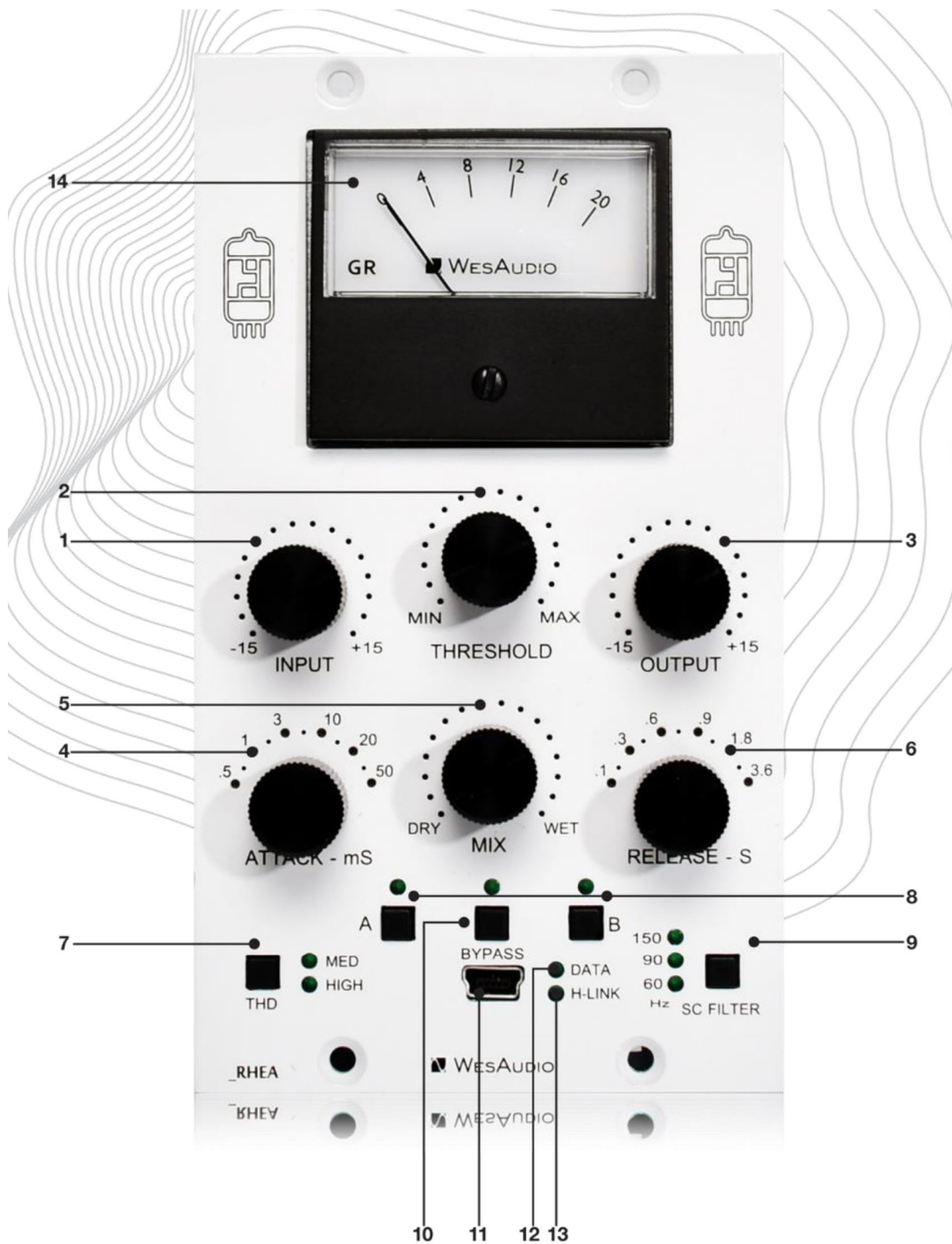
- 1) Rupert Neve Designs 500 シリーズラック (R6 および R10) 、
- 2) Aphex 500 シリーズラック、problematic_screw-copy
- 3) いくつかの古い BAE ラック (現在は製造されていません) 。
- 4) Midas L6/L10 -モジュールはスロット位置によって最後までフィットしません。

* Rupert Neve Designs を含む、大抵のケースでは電源ラックのスロット上側のねじを外すことで WesAudio の ng500 モジュールを挿入することができます。

次の URL に詳細のインストラクションがございます。 http://wesaudio.com/r6_mod/



フロントパネル



1. **INPUT** - シグナルの入力レベルを設定します。レンジ:-15dBから15dB
2. **THRESHOLD** - コンプレッサーのニーへの動作レベルを設定します。無段階に設定可能です。
3. **OUTPUT** - シグナルの出力レベルを設定します レンジ: -15dBから15dB
4. **ATTACK** - コンプレッサーが変更を追従するクイックネスを設定します。0.5, 1, 3, 10, 20, 50msの6つのアタックレートから設定します。
5. **MIX** - エフェクト/ドライのシグナルをミックスしてパラレルコンプレッションを達成できます。
6. **RELEASE** - 0.1, 0.3, 0.6, 0.9, 1.8, 3.6secからリリースタイムを選択します。
7. **THD** - エフェクトシグナルに対するハーモニックディストーションを調整します。MED (1%THD) と HIGH(2.5%THD)から2つから選択します。
8. **A/B** - 2つのスロットに異なるコンプレッション設定を記録して、切り替えながら比較することができます。
9. **SC FILTER** - サイドチェイン・ハイパスフィルターのフリークエンシーを60Hz, 90Hz, 150Hzから選択します。
10. **BYPASS** - トゥルーバイパスのバイパススイッチ
11. **USB** - モジュール制御用のUSBポート
12. **DATA LED** - DAWからデバイスへデータが送信されていることを表示します。
13. **H-LINK LED** - ホストモジュールとの接続状態を表示します。
14. **GR METER** - ゲインリダクション量を表示するアナログのGRメーター

サウンド

Vari-muスタイルのコンプレッサーは非常にナチュラルなサウンドです。とても音楽的に作用するため、多くの状況で高いゲインのリダクションセッティングでコンプレッサーをプッシュしたくなるでしょう。これは全く問題ありません！ただし引き換えに多くの負荷でチューブがオーバーロードし、最終的にディストーションが聞き取れるようになります。一部の高いピーク、ドラムのような早いトランジェントの素材ではこれは望ましい効果ですが、オーディオソースと一致しない場合もあります。非常にアグレッシブな設定のときに、このようなエフェクトが聴こえ始めることに留意してください。このような動作はユニットのヘッドルームとは関係なく、チューブによるものです。

Thump?

“Thump”(サンプ)、“Thumping”(サンピング)はサイドチェインのコントロールボルテージがシグナルに影響を与えて発生する、Vari-muコンプレッサー特有のエフェクトです。これはチューブの非常に小さな不均衡により発生し、処理されたシグナルのローエンドへ特定のサウンドを発生させることがあります。これはローエンドの情報を強調するため実際は望ましい効果であることが多いですが、ボリュームが小さくマイルドなソースの場合は、この効果がよりはっきりと聴こえることもあります。使用されるチューブは全て非常に複雑なペアリングとパラメーターチェックが行われますが、いくつかの小さなミスマッチがこの効果を引き起こすことがあります。このような状況では、入力シグナルを上げてアタックとリリース設定を様々に試してみることを、強く推奨します。

INPUT, OUTPUT and THRESHOLD?

ユニットのゲインステージングにおいて様々な設定をできるように、_RHEAはチューブコンプレッションステージへのレベル(Input)、コンプレッション量(Threshold)、最後にコンプレッサーの出力(Output)をそれぞれ制御できます。これらのパラメーターで、ソースに変更を加えるのに最高の柔軟性を得ることができるのです。スレッシュホールドはエフェクト内で非常にマイルドに聴こえますが、より多くのコンプレッションが必要な場合はInputノブを同じ目的で使用もできます。これらの各パラメーターはオートメーションさせることができるため、曲中の違うセクションで様々な設定を試すことを忘れないでください！

THD

THDスイッチは、コンプレッサーの出力段を過負荷にする独自の回路を有効にします。この回路は他のアプローチでは実現できない、ソースに独特な倍音と存在感をもたらします。私たちはそのデザインに誇りを持っており、あなたがそれを楽しんでくれることを願っています！

Stereo vs Mono

RHEAはトゥルーステレオコンプレッサーです。これは各チャンネルのディテクター回路がサイドチェイン回路のサミングされたシグナルを処理していることを意味します。これによりデュアルモノモードでの動作はできなくなります。例えば、キックとスネアのように、2つの独立したトラックを同時に各チャンネルで処理することはできません。ただし1つのモノラルチャンネルのみ単体で処理することは可能です。例えばモノラルボーカルトラックを_RHEAに入力して、エディットを楽しんでください！

SOFTWARE

最新のPC用のコントロール・ソフトウェア(プラグイン)は、以下の製品ページよりダウンロードいただけます。

<http://www.wesaudio.com/download>

または

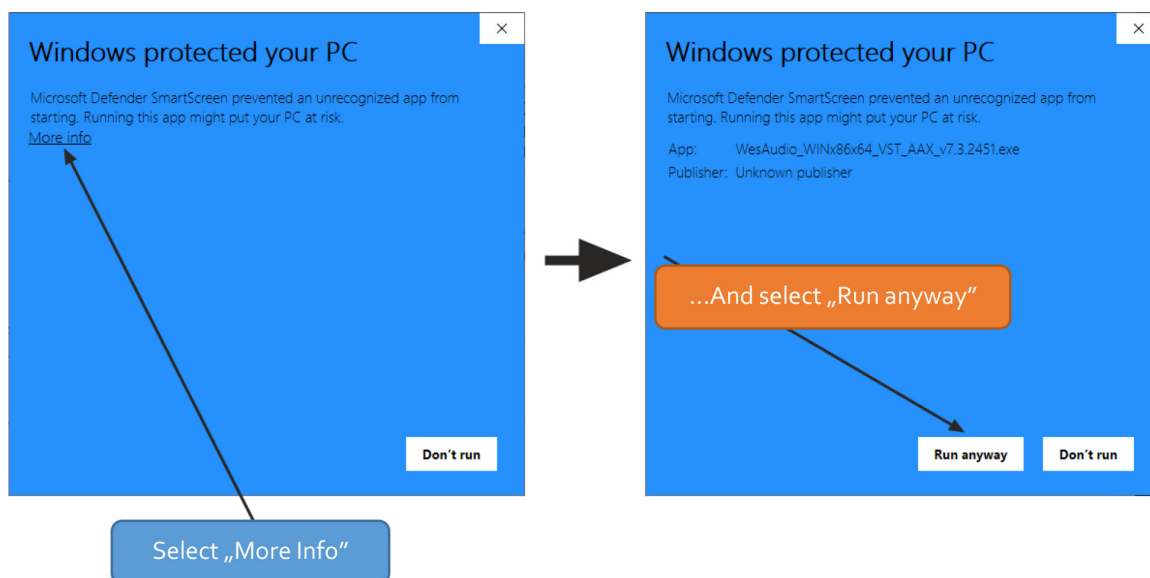
http://umbrella-company.jp/wesaudio_rhea.html

Installation

上記のいずれかのサイトよりコントロール・ソフトウェアをダウンロードしてください。

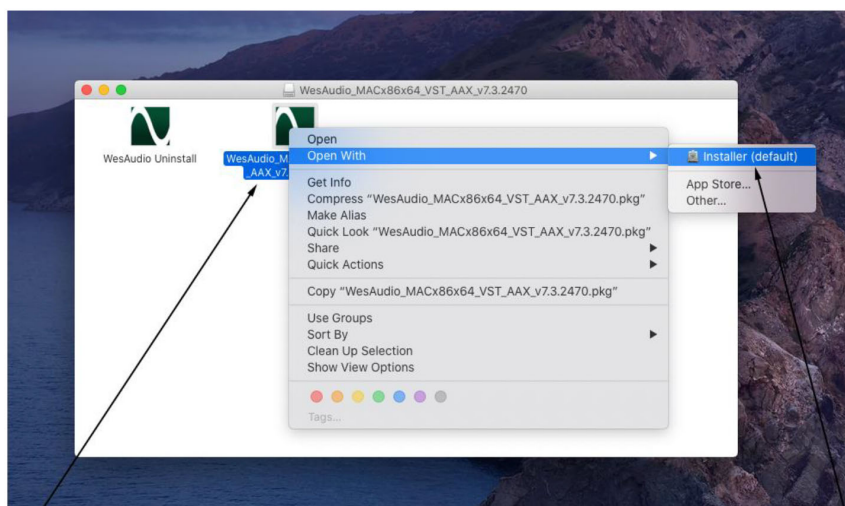
WINDOWS OSの場合

お使いのインストーラーでダウンロードしたコントロール・ソフトウェアをインストールします。もしインストーラーによって何らかの警告が出る場合にはそれを無視してインストールを続行します。最初のインストール時にはWesAudioのハードウェアを接続しないでください。USBドライバーがインストールされるとアプリケーションがハードウェアをUSBで接続するよう要求しますのでそれに従ってください。



OS Xの場合

Mac OS Xの場合にはインストールの作業を行うときに、WesAudioのハードウェアを(USBで)接続して行ってください。もしインストーラーによって何らかの警告が出る場合にはそれを無視してインストールを続行します。



RIGHT CLICK or CONTROL+ left click

And select Installer(default)

ハードウェアのアップデート

ハードウェアのアップデートはコントロール・ソフトウェアに含まれていますので、USB接続されたハードウェアに対してアップデートが自動に行われます。ハードウェア・アップグレードのためのアプリケーションは以下のフォルダーにあります。プラグインをインストールする際にUSBでデバイスが接続されていれば自動で行われるために通常は必要ありません。個別に行う場合は以下を参照ください。

•Windows OS

c:/Program Files x86/WesAudio/WesAudio_HWUpgrade_WINx32x64_version.exe

•Mac OS X

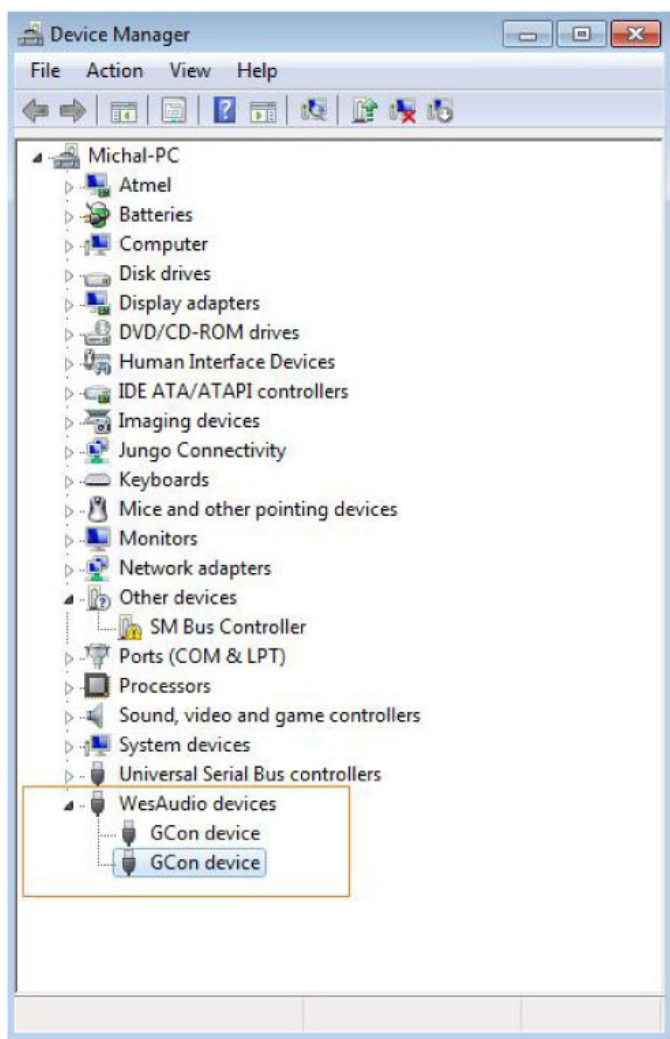
/Application/WesAudio/HW/hw_upgrade.command

Trouble Shooting

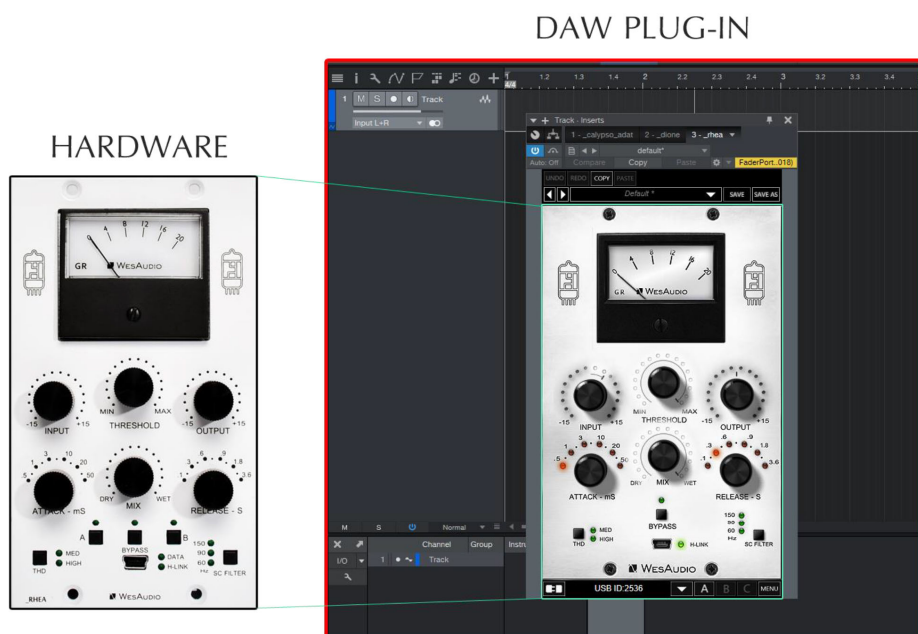
“プラグインのドロップダウン・メニューにデバイスが見つからない場合”

Windowsマシンではシステム上で正しくUSBデバイス接続されていることが重要です。

コントロールパネル>システム>デバイスマネージャで以下のように認識されていることを確認してください。



プラグインの説明



_RHEAは完全にアナログのデバイスであり、デジタル版と統合するように設計されています。ソフトウェアプラグインは、VST2 / VST3 / AU / AAXまたはスタンドアロンアプリケーションで利用できます。

プラグインとハードウェアユニットを接続すると、両方のユニットがまったく同じパラメータ状態を示す必要があります。つまり、ハードウェアユニットで変更されるものはすべてプラグインに表示され、プラグインで変更されるものはすべてハードウェアユニットに表示されます。パラメータを変更するたびに、ユニットのアナログ回路にも変更が適用されるため、両方の長所を活かすことができます。

実際には、PC / MACに接続されているGConデバイスが多数ある可能性があるため、プラグインとハードウェアユニットの接続を開始するには、ドロップダウンリストから適切なIDを選択する必要があります。これを行うには、プラグインの左下のセクションにある小さな三角形のボタンを押してください。





CONNECTION DETAIL(コネクションの詳細)

接続状態を示します

- a. ON - 接続されています
- b. OFF - 接続されていません
- c. Connecting - 接続プロセス中です

このステータスが”Connecting”のまま5秒以上表示されている場合には、プラグインがユニットをコントロールしていない状態です。その理由としては、

- ・ハードウェアユニットが接続されていない
- ・ハードウェアユニットがオペレーションシステムから切り離されている
- ・その他の理由

SELECT CONNECTION BUTTON(セレクト・コネクション・ボタン)

このボタンは現在接続されている全てのデバイスを表示します。ドロップダウンメニューにIDが表示されない場合は、GConプロトコルにデバイスが検知されていないことを示しています。

TOGGLE CONNECTION BUTTON(トグルコネクション・ボタン)

このボタンはステータスをON/OFFでトグルします。IDが正常に選択されているときだけ有効です。

CONNECTION DETAIL(コネクションの詳細)

以下のような追加の接続情報を表示します。

- a. USB - モジュールが本体フロントパネルのUSB端子で接続されている状態です。
- b. S#X - USBバスを持ったWesAudioの電源ラック Titanを使用した場合は、USBケーブル1本で複数台を接続できますが、その場合はこの表示となり、#はスロット番号が表示されます。

CONNECTION ID(コネクションID)

本体の固有のハードウェア番号(製品のシリアル番号)を表示します

FAST SETUP CHANGE A/B/C (ABC比較ボタン)

プラグイン上でのセットアップのA/B/Cを切り替え試聴します

UNDO

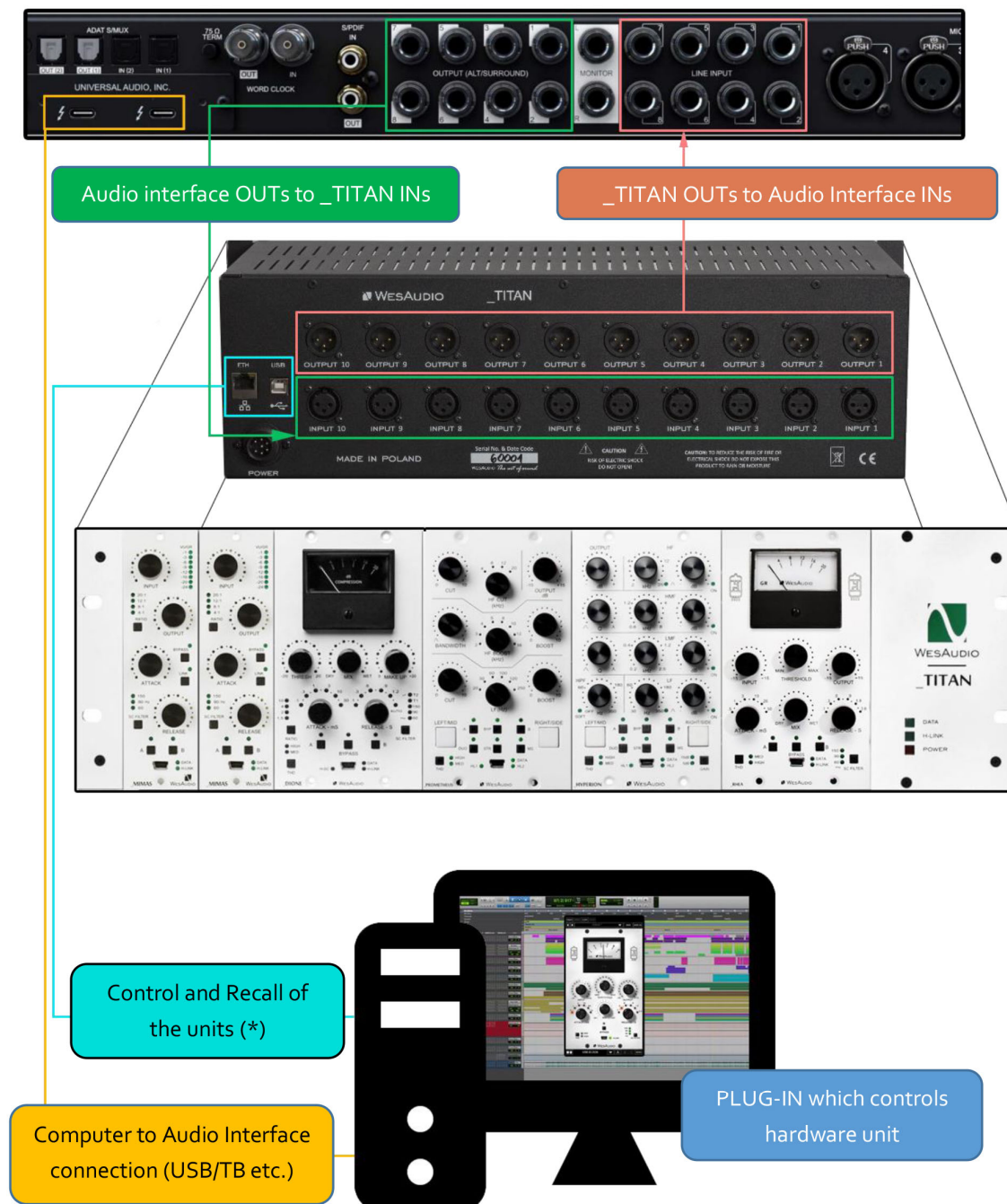
過去20回までのパラメーターの変化にアンドウします。

REDO

過去20回までのパラメーターの変化にリドゥします。

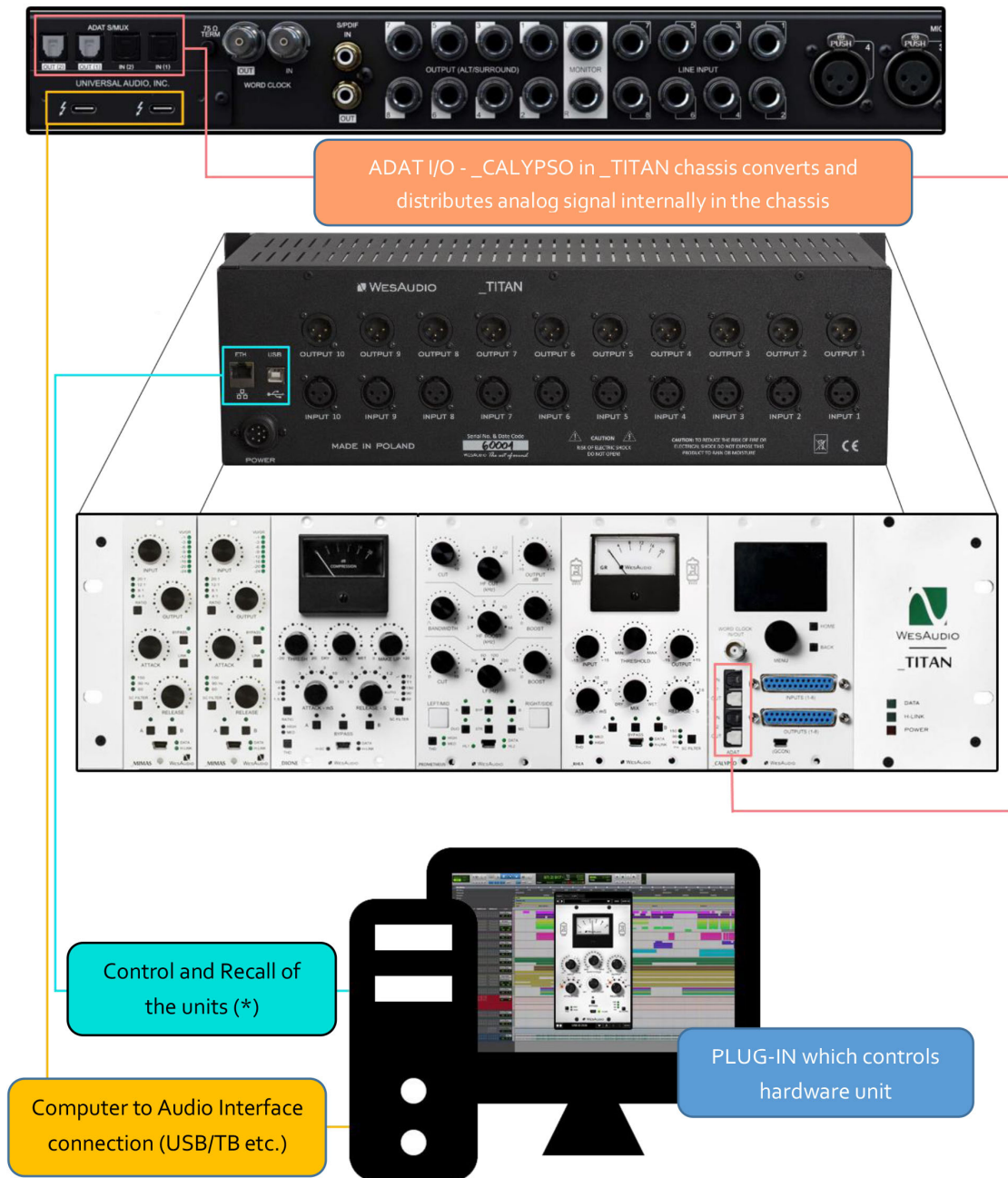
接続ダイアグラム

6.1. Hookup diagram – analog cables with _TITAN



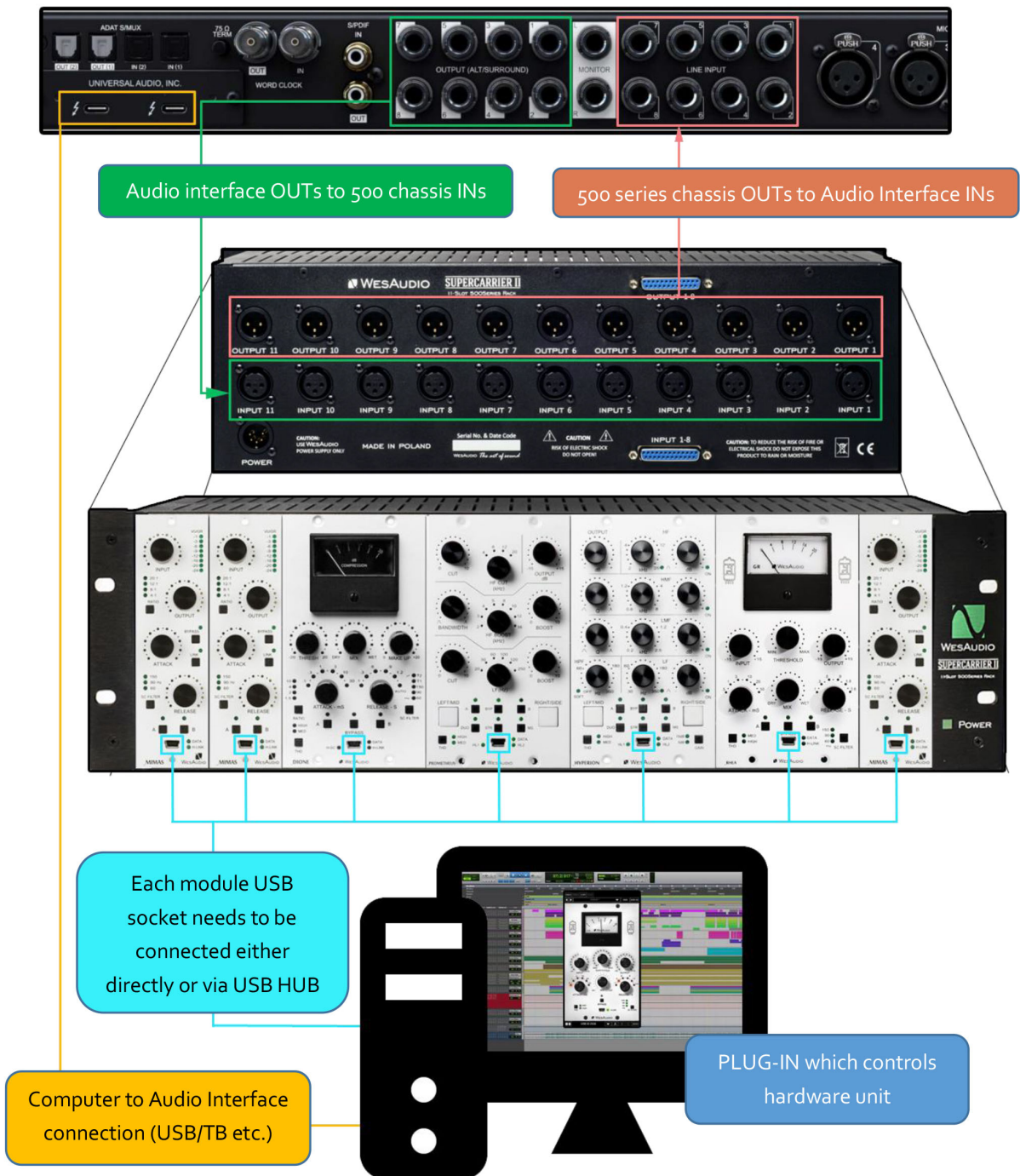
(*) Please note that _TITAN Ethernet connection doesn't require direct connection with the PC/MAC – You can also plug in the _TITAN directly to the router and use your local network to access and control all units inside _TITAN.

6.1.1. Hookup diagram – _CALYPSO and _TITAN



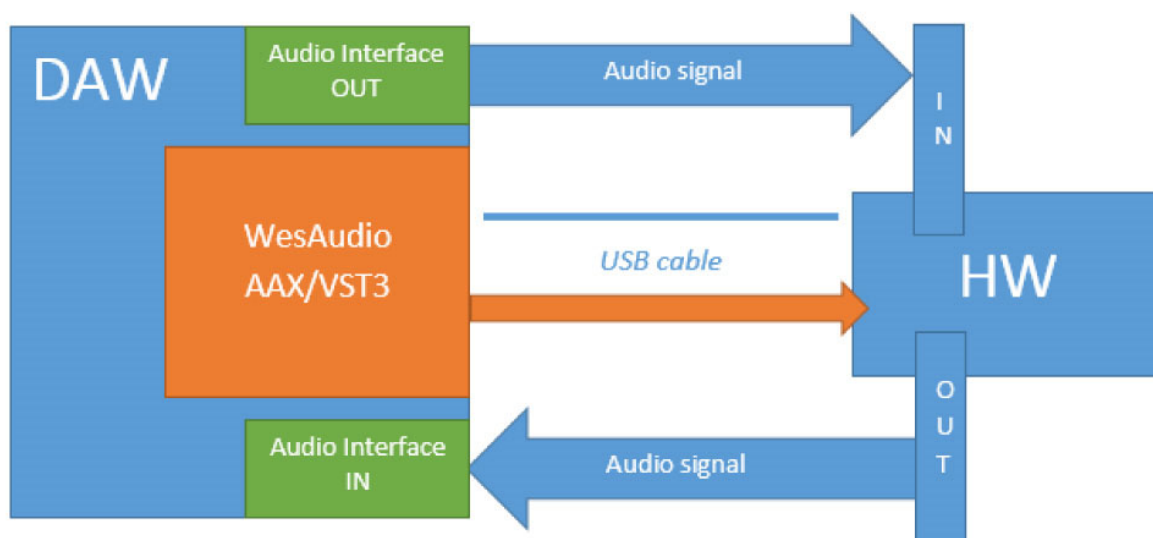
(*) Please note that _TITAN Ethernet connection doesn't require direct connection with the PC/MAC – You can also plug in the _TITAN directly to the router and use your local network to access and control all units inside _TITAN.

6.1.2. Hookup diagram – 500 series chassis



HW insert/External effect in DAW

ハードウェア本体のPCへのセットアップはプラグ & プレイで行われますのでUSB接続するだけで自動に行われます。またハードウェア(_Dione本体)は、ソフトウェアからコントロールされるだけですので、実際の音声信号は本体のI/Oから接続します。



Device Control Setup

プラグイン経由でコントロールする場合のセットアップ

- ・_Dione(ハードウェア)を電源ラックにセットして、USBケーブルでPC(MAC/WIN)に接続します。
- ・DAW上のトラックにWesAudioプラグインを立ち上げます。TOGGLE CONNECTION BUTTONを押して、セットアップされたハードウェアの固有のID番号を選択してください。
- ・プラグインとハードウェアが接続されるとステータスが“ON”の表示に変わります。これで準備完了です。

Device Audio Setup

プラグイン経由でコントロールする場合は、オーディオI/Oにハードウェアからの信号(入出力)を接続して、ルーティングしてください。

*オートメーションとサイドチェインについて

ホストになるDAWの設定でレイテンシーが発生しますので、WesAudioのコントロール・プラグインは、他のエフェクトプラグインの前段に接続する事をお勧めいたします。

メモリー

ハードウェア本体を単独で使用する場合 (DAWシステムとUSB接続せずに単体で使用する時)は、A/Bのプリセットをメモリーできます。これにより2種類の設定の比較をハードウェア側で簡単に比較する事ができます。

また、プラグイン・ソフトからはA/B/Cのセッティング比較が可能で、これはハードウェア本体でメモリーしたセッティングとは別になります。

つまりハードウェアにメモリーしてあるA/B設定は、USBでPCと接続した瞬間に無効になり、その場合はプラグインのA/B/Cの設定が有効になります。もちろんA/B/Cはクイック比較のボタンですので、実際には無限のプリセットをプラグインは保存できる事になります。

Automation

DAWでオートメーションを書き込むことに対応しています。DAWでオートメーションを有効にして、ハードウェア本体のノブをリアルタイムに動かして記録できます。

ProTools Integration

ソフトウェアリリース2.1以降、WesAudioプラグインはすべての強力な機能を使用してProToolsと統合されました。

- ・PT11 +ゲインリダクションメーターはミックスビューに統合されています。
- ・ミキサーまたは編集ビューからのPT10 +エンゲージバイパスモードにより、ユニットのハードウェアバイパスが有効になります。
- ・プラグインインスタンスを「非アクティブ」にすると、プラグインが強制的にアンロードされるため、ハードウェアからも切断されます。これは、新しいプラグインインスタンスを使用して、以前のすべての設定が非アクティブ化されたプラグインを介して保存されている同じハードウェアユニットに接続できることを意味します。複数のソースで1つのユニットを操作し、マウスを1回クリックするだけですべての設定を呼び出すことができるので非常に便利です。
- ・PT12 +-コミット機能- Pro Toolsのコミット機能はハードウェアインサートのプリントにも使用でき、WesAudioプラグインと100%互換性があります。HW InsertおよびWesAudioプラグインに対してコミットがトリガーされると、プラグインはそのソースから切断され、すべての設定が保存されます。その結果、次のようになります。
 - アナログプロセッサを介してプリントされたトラック
 - プラグインインスタンスを介して非アクティブ化されたトラックに保存されたハードウェア設定、
 - 新しいプラグインインスタンスを使用して、異なるトラック上の同じハードウェアに接続できます。
 - 非アクティブなトラックはいつでも再度有効にでき、WesAudioプラグインはハードウェアに再接続して、すべての設定を自動的に復元します (プラグインの1つのインスタンスを同時にハードウェアに接続することに注意してください)。

GCon Manager

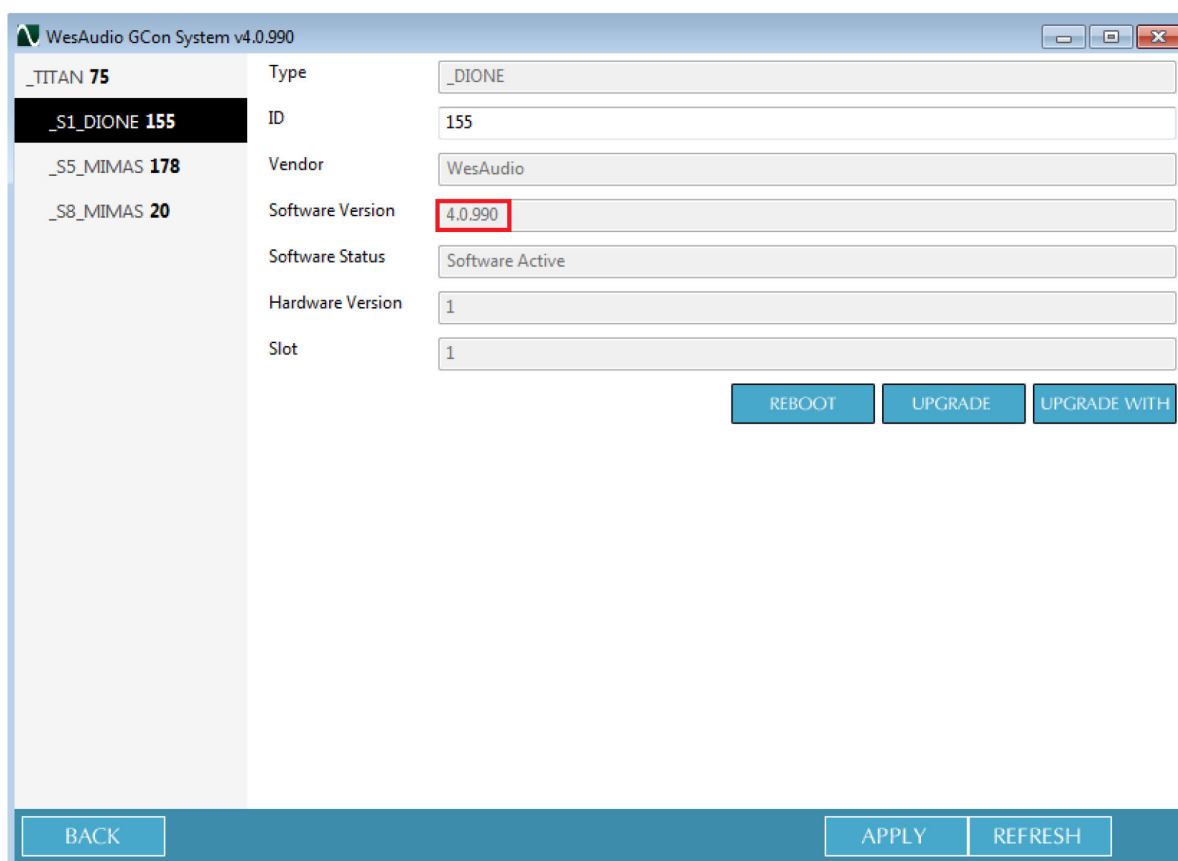
GCon Managerは、互換性のあるユニットの構成管理を実装する汎用アプリケーションです。これは、アプリケーションフォルダデータにあります。

- ・OSXの場合:「/ Applications / WesAudio / GConManager」
- ・WINDOWSの場合: インストールフェーズで指定されたフォルダー。デフォルトでは、「c:/ Program Filesx86 / WesAudio / GConManager.exe」にあります。

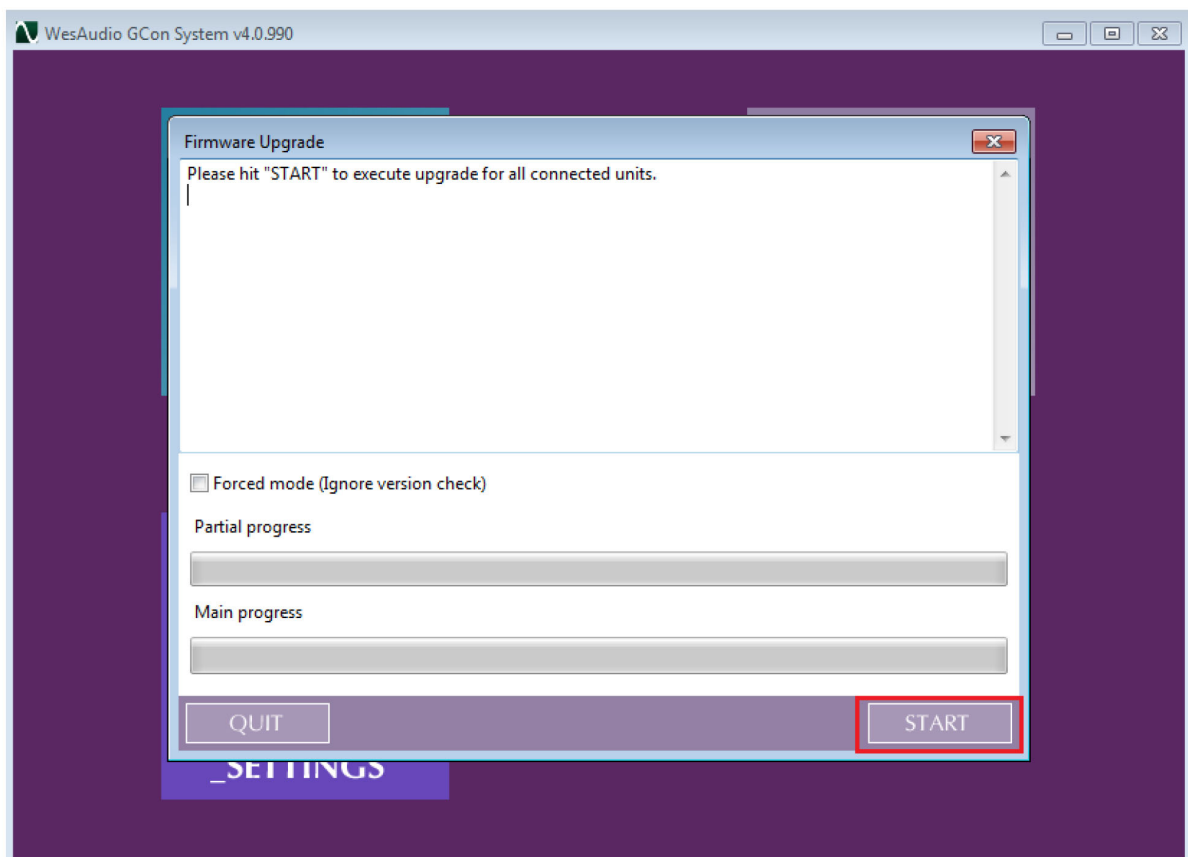
GConManagerは、WesAudioの「トレイ」アイコンをクリックして「GConManagerを開く」を選択することでも開始できます。

ファームウェアのチェックとアップグレード

ファームウェアのアップグレードを確認するには、GCon ManagerCONFIGアプリケーションにアクセスしてください。



ファームウェアのアップグレードを実行するには、GConManagerアップグレードアプリケーションに移動し、「Start」ボタンを押します。これにより、ホストソフトウェアが最新ではないすべてのモジュールのアップグレード操作がトリガーされます。



こちらに詳しいインフォメーションがございます

<https://www.youtube.com/watch?v=RG1t176BfKE>

Factory reset

工場出荷時へのリセット手順では、ファームウェアが内部フラッシュメモリに再書き込みされます。ユニットの構成には影響しません。工場出荷時のリセットを続行するには、次の手順に従ってください。

- 1) ユニートを次のいずれかに接続します。
 - a) フロントパネルのUSBソケットから
 - b) または、ユニットをng500シャーシ(_TITAN)に保持しますが、USBまたはイーサネットケーブルを介してPC / MACに接続する必要があることに注意してください。
- 2) 500シリーズシャーシの電源を切ります。
- 3) THDボタンを押す
- 4) THDボタンを押したまま、500シリーズシャーシの電源を入れます。
- 5) LEDはパターンを示します。
- 6) GConManagerを開きます。
 - a) WIN: C: / Program Files (x86) / WesAudio / GConManager.exe
 - b) MAC / Applications / WesAudio / GConManager.app
 - c) または、WesAudioの「トレイ」アイコンをクリックして、「Open GConManager」を選択します。
- 7) _UPGRADEアプリケーションに移動します。
- 8) Startを押します！

トラブルシューティング

Q) モジュールがフリーズし、エンコーダの動きに反応しません

A) モジュールがフロントパネルのノブの変更に反応しない場合、最初に必要な手順は、ファームウェアをフラッシュメモリに再書き込みすることです。これを行うには「工場出荷時のリセット」の章に進んでください。それでも問題が解決しない場合はお問い合わせください。

Q) バイパス時のみしか信号が出力されません

A) ほとんどの場合、根本的な原因はユニットとオーディオインターフェイスの接続にあります。その場合は、オーディオインターフェイス入力シャーン入力に接続されていないかどうか、およびオーディオインターフェイス出力がシャーン出力に接続されていないかどうかを確認する必要があります。すべてのユニットがリレーを介して「True Bypass」を実装しているため、バイパスが有効になるとユニットは信号を渡します。その理由は、リレーは実際には出力へのハードワイヤリング入力であり、ユニットのアクティブな回路を通過しないため、ユニットは信号を通過させません。

Q) モジュールがプラグインに接続できません

A) これは様々な解決方法があり、少なくともいくつかの根本的な原因がある可能性があります。ただし、最も重要なことは、GConManagerがそうではないことを再確認することです

このデバイスを_CONFIGアプリにリストします。この場合、WesAudioユニットがOSレベルで接続できないことを意味し、以下の手順のいくつかが役立つ場合があります。

・まず、モジュール接続が正しく実行されているかどうかを再確認します。この手順については、ここで説明します。

・USB仕様は、USB2は規格上で最大5メートルです。ただし、これはユニットが接続されている周辺機器に大きく依存するため、完全には当てはまりません。モジュールがUSB2.0互換であっても、USBポートはUSB 3.0をサポートできます。USBは下位互換性のあるプロトコルであるため、USB3.0ケーブルの長さの制限である2メートルを考慮する必要があります。これらの制限を取り除くために、最大2メートルまでのUSBケーブルを使用することをお勧めします。

・USBHUBは、これらの問題の一般的な根本原因です。モジュールがHUB経由で接続できない場合、テストのために、ユニットをPC / MACに直接接続して、問題の場所を確認してください。

・「WesAudioトレイアイコン」に添付されているシステム警告に注意してください。

Q) モジュールが自動的に切断される

A) USBコントローラーの容量には限りがあるため、ユニットがランダムに切断される原因となる可能性があります。通常、多くのUSBデバイスがPC / MACに接続されている場合に発生します。通常の動作では、ユニットは正常に動作し、再起動後は動作しませんが、OSの実装に大きく依存するため、正確な反応は少し異なる可能性があります。これが疑われる場合は、テストのためだけに、ほとんどのデバイスをUSBポートから切断し、PC / MACを再起動して、安定性の観点から接続を再確認することをお勧めします。これが問題の根本原因であるという結論につながる場合は、適切なUSBハブ、理想的にはPC / MACから多くの責任を軽減する傾向があるTB / USBドックステーションを使用することをお勧めします。

Q) モジュールが接続できなくなりました

A) ユニットが正常に動作していて、突然接続できなくなった場合 (GConManager_CONFIGアプリでは表示されない)、一部のデバイスがUSB回線に追加されたという結論に至り、USBコントローラーに問題が発生する可能性があります。その場合は、上記の「モジュールが自動的に切断される」の章の説明を確認してください。

Q)WINDOWS) ユニットがプラグインに接続できません。

A)インストールレベルで問題が発生している可能性があります。

